

NO.417

人権さんだ



平成25年度
三田市人権ポスター入賞作品

武庫小学校3年 浅田 健志さん

思いやる
小さな勇気が
自分を変える

ゆりのき台中学校PTA(前年度)
やまもと やすゆき
山本 康之さん

平成24年度
三田市人権標語入賞作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝まちづくり部人権推進課
(559-5081-5148 FAX563-3611 e メールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

Friendship Day in SANDA

～在住外国人との交流広場～



あなたの周りのいろいろな国の文化についてもっと知って欲しいという願いのもとに、在住外国人との交流広場『フレンドシップ デイ イン サンダ』が今年も開催されました。他の国の文化を知ること、その国の良さを実感し、お互いを認めあうことで、共に生きるまち『三田』の実現をめざしています。

様々な交流を通してつながり合い、共に平和な社会にしたいというわたしたちの願いが壊されることがあります。そのひとつが戦争です。12月14日に開催しました『人権を考える市民のつどい』で、戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴える平和学習作文が発表されましたので紹介します。

『海と風を感じながら思うこと』

三田学園高等学校2年

梶谷 未来野

畑にはばらばらの死体がたくさん転がっていて、踏むとヌルヌルとした…。

私の目の前にはそのような残酷で、信じられないような光景が広がった。まるで私がそこにいるような感覚だった。

私は修学旅行で沖縄へ行った。そこで、実際に、沖縄で地上戦を経験された方にお話を聞いて頂いた。その時に感じたことである。

他にも印象深い言葉がある。「戦争では、みんな狂う。人がばけものになる。」という話か。私はこの言葉だけでは真意がよくわからなかった。けれど、免許証の存在を知って、恐ろしいと思った。何の免許証か。米兵が持っていた、日本人を殺すことを許可する免許証。有効期限、絶滅するまで…。私は初めてその存在を知った。ぞっとした。戦争は、私たちの想像をはるかに越えている。

また、私は修学旅行中にひめゆりの塔とひめゆり資料館へ行った。戦争でなくなった私と同じ十六、七歳の女生徒たちのレクイエムがあった。一人一人の写真と名前、性格から得意なことまで刻まれていた。私はどうして他人事と思えず、見入ってしまった。そこには彼女たちの持ついた夢や希望、未来があった。

彼女たちが働いていたガマ(※)にも入った。本当に真っ暗だった。少し居るだけで怖かった。私はだんだん息苦しくなった。私は感じずにはいられなかった。負傷兵うごめく暗闇の中、希望に溢れていたはずの少女たちの、苦しみを。

沖縄では、全く罪のない人々が大人、子ども、性別関係なく殺された。集団死も数多くあった。そんな、『捨て石』にされたこの土地では五感で感じるものがある。教室で座って聞くだけでは分からないことがある。そう思った。